

5月9日の日中首脳会談で安倍総理と李克強総理が中国からのトキの提供に合意し、直後の署名式において、両総理の立ち会いのもと、中川環境大臣と王毅国務委員兼外交部長（中国側代表）と「トキ保護協力の継続実施に関する覚書」に署名し、中国からの新たなトキ（雌雄各1羽）の提供が11年ぶりに決まった。

環境省では、日本のトキの遺伝的な多様性を確保するため、中国に対して新たなトキの提供を要請してきたところであり、今回の提供により我が国における今後の野生復帰がさらに安定的に進むことが期待される。

日中間協力の経緯

1985 ～ 1989	中国のトキ「ホアホア」の借り受け(4繁殖期) 日本のトキ「キン(雌)」とペアリングするも成功せず。返還。
1990 ～ 1992	日本のトキ「ミドリ」の婿入り(3繁殖期) ミドリ(雄)を北京動物園に送り中国のトキ「ヤオヤオ(雌)」とペアリングするも成功せず。返還。
1994 ～ 1995	中国のつがいの借り受け(1繁殖期) ロンロン(雄)、フォンフォン(雌)のペアを借り受けるも成功せず。飼育中ロンロンが急死、フォンフォンは中国に返還。
1998 ～ 1999	中国のつがい「友友(ヨウヨウ)、洋洋(ヤンヤン)」の贈呈 国賓として来日した江沢民 中国国家主席が天皇陛下に贈呈を表明。 99年1月佐渡トキ保護センターに到着。「優優」誕生。
2000	中国のトキ「美美(メイメイ)」の提供 朱鎔基総理が森総理との首脳会談で、「優優」のパートナーを日本に提供する旨表明。
2007	中国のトキ「華陽(ホワヤン)」、「溢水(イーシュイ)」の提供 4月に来日した温家宝総理が安倍総理との首脳会談の場で2羽のトキの提供に同意。

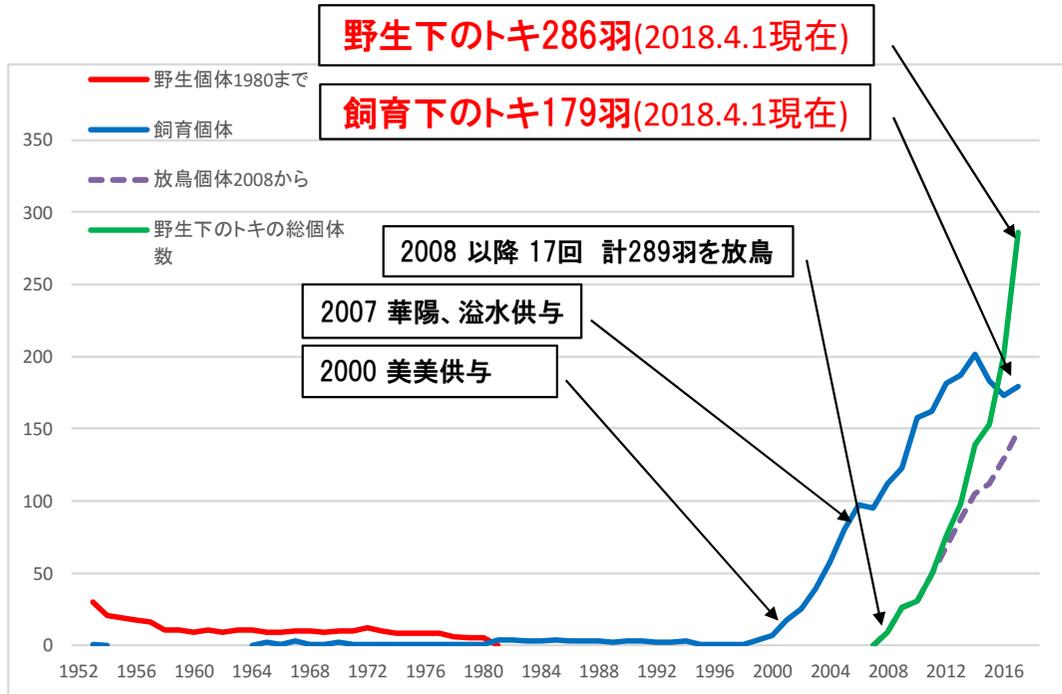
日中の相互協力



日本の取組概要①

1. 日本のトキの個体数の推移

<現状> 186羽定着※(2018.4.1現在)
 <当面の目標> 2020年までに220羽定着※
 ※定着・・・野生下で1年以上生息すること



佐渡トキ保護センター（トキ飼育繁殖の中核施設）

2. 飼育繁殖

H30.4.1現在

佐渡トキ保護センター (野生復帰ステーション含む)	147羽 (友友・洋洋・華陽・溢水の4羽を含む)
分散飼育 (多摩、いしかわ、出雲、長岡、佐渡)	32羽
合計	179羽



飼育・繁殖ケージの様子

日本の取組概要②

3. 野生復帰

①放鳥

第1回(H20.9.25) 10羽 (秋篠宮同妃両殿下御臨席)
 第2回(H21.9.29)～第17回(H29.9.22)各13～19羽
 合計289羽



第1回放鳥状況 (ハードリリース)



第2回放鳥状況 (ソフトリリース)



野生復帰ステーション(放鳥のための訓練施設)

②野生下での繁殖状況(巣立ち数)

	巣立ち数	うち純野生※
平成21年 ～ 平成23年	0	0
平成24年	8	0
平成25年	4	0
平成26年	31	0
平成27年	16	0
平成28年	40	6
平成29年	77	15

※平成20年に第1回放鳥を実施。このため繁殖は平成21年から
 ※純野生とは両親ともに野生生まれのトキを親とするトキ



友友 (ようよう) と
 洋洋 (やんやん)



佐渡で飛翔する野生トキ